

千葉菌類談話会

10年の歩み

観察会の()内は参加人数とキノコの採集種数

千葉菌類談話会会長
腰野文男

設立時の入会のしおりより

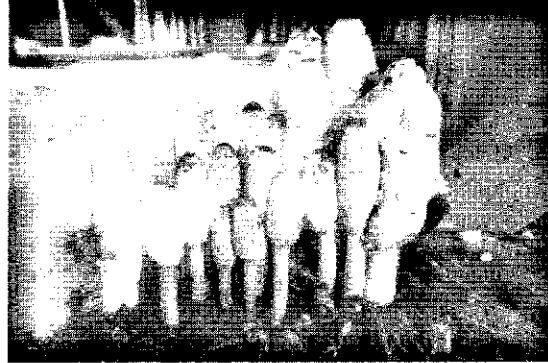
- (1) 名称／千葉県菌類談話会
(最初は県が入っていたが県の機関とまぎらわしいので後で千葉菌類談話会に統一)
- (2) 目的／キノコなど菌類を通して自然に親しみ千葉県内のキノコなど菌類の調査研究等を行う。
あわせてキノコなど菌類についての各種催し物を開催し、会員相互の親睦と知識の交流をはかることを目的とする。
- (3) 行事／1 キノコなど菌類の野外の採集・鑑定会
2 キノコなど菌類についての講習会・講演会
3 キノコなど菌類についてのスライド上映会
4 会員相互の親睦と知識の交流の会
- (4) 1 会長 腰野文男（千葉県立中央博物館）
- (5) 入会方法／別紙

千葉菌類談話会設立以前の思い出

平成3年に千葉菌類談話会がスタートしてから早いもので10年になる。十年一昔で設立当時はすでに昔の話になってしまったがスタートする前のキノコの観察会はどうだったのか、設立の背景みたいなものはどうだったのか、その時の資料や手帳などを出して見ているといろいろな事が思い出される。平成元年までさかのぼって見ると大きな出来事の一つに平成元年2月の千葉県立中央博物館（以下博物館）のオープンがあった。当博物館では準備室以来、堀江・吹春・腰野の3名がいわゆるキノコチームで開館時はキノコの採集・標本づくり・写真撮影と仕事に忙殺されていた。その年の記録を見ると10月1日に以前から県立房総風土記の丘主催の“秋の自然観察会”でなじみの深かった風土記の丘を会場に同館と共にアカマツ林のキノコの採集会が開かれている。午前中は採集と野外観察、午後は吹春さんが担当で採集したキノコの同定会とそのあとキノコの話という



第2回観察会(リババ)にて、今治先生のこを同定



ササクレヒトヨタケ、第4回観察会(10/2)本郷先生観察会にて

1991年(平成3年)

- 総会・第1回観察会(採集会) 7月28日 (48種)
房総風土記の丘

- 第2回観察会(採集会) 9月28日
房総風土記の丘

- 指導／本郷次雄先生
ゲスト／森林総研 根田仁先生、服部力先生

- 講座

- スライド大会

- 会報 No.1 / 6・20 No.2 / 8・20

- 名簿

- 幹事会 1991・6・27 中央博物館

1992年(平成4年)

- 総会・第3回観察会(採集会) 8月8日 (24名 10種)
市原市民の森

- 第4回観察会 10月2日 (29名 17種)
清和県民の森 指導／本郷次雄先生

- 第5回観察会 11月7日 (20名 51種)
清和県民の森 指導／内田正宏先生、川崎健市先生、服部力先生

- 講座

- 第1回スライド大会 11月28日
中央博物館会議室 (参加 50名)

- 会報 No.3 / 7・20

- 名簿 1992・7・12 発行 (会員数 92名)

- 幹事会 1992・6・11 中央博物館

日程だった。会が解散した後ある出席者から“千葉県にはキノコの同好者なら誰でも入れるような会はないですかね”と質問を受けた事を記憶している。ちょうどその年に今関六也・本郷次雄両博士の名著原色日本新菌類図鑑の2巻目が発刊になった。この本が旧巻同様キノコ研究の愛用書となったのは申すまでもないが巻末に注目すべき一文がのっていた。“専門家とアマチュアの提携について”という標題でスイスの原色菌類図鑑と1988年に出版された神奈川県植物誌がその好例として紹介されていた。たまたま博物館がオープンして間もなくこの神奈川県植物誌発刊の立役者である大場達之先生が副館長として着任されたのである。今思えばその事が千葉菌類談話会設立前に頭の中の背景にあったように思えてならない。

千葉菌類談話会のスタート

そうこうしているうち寺川家、アマチュアを問わずキノコの同好者なら誰でも入れる会を千葉県にぜひつくって欲しいという要望が高まってきていた

るという話を耳にするようになった。平成3年を迎えた或る日、堀江さんと吹春さんから話があつて“会長になってキノコの同好会をぜひつくって欲しい”というのである。“え”と生返事はしたもの、はてどうしたものかと途方にくれるばかりであった。その後引き受けたものとして吹春さんからは具体的にどうしたらいいかという相談があったのである。おそらくこのとき例の図鑑の巻末にあったことが頭の背景にあったせいでしょう。“やれるだけだけやって見ようか”と決心して同好会設立の計画を立てるはめになったのである。そこで会則にしばられる事のないよう出来るだけ規則化をさせてその都度関係者の間で相談して運営しようと会の名称と目的の他、行事だけを決めてスタートする事となった。

千葉菌類談話会の諸行事

この10年間に開催された千葉菌類談話会の諸行事を別表(上記)に取りまとめたのでご覧いただきたい。



伊沢さん写真講座(6/19)にて記念写真



第10回観察会(9/17)

1993年(平成5年)

- 総会 6月19日 中央博物館
- 第6回観察会(採集会) 7月24日 (28名 55種)
泉自然公園
- 第7回観察会(採集会) 10月23日 (46名 97種)
泉自然公園
指導/本郷次雄先生 ゲスト/オレンボさん(ケニア)
- 第8回観察会(採集会) 11月13日 (48名 45種)
市原市民の森 指導/服部 力先生
- 講座 6月19日 伊沢正名先生/キノコ写真の撮り方
11月16日 吉見昭一先生/腹菌類の分類
- 第2回スライド大会 12月4日 (参加 41名)
中央博物館会議室 テーマ/ヒトヨタケ属
- 会報 No.4 / 4・28 No.5 / 9・5 No.6 / 3・12
- 幹事会 1993・4・3 中央博物館 1994・3・19 中央博物館

1994年(平成6年)

- 総会 7月23日 中央博物館企画展「不思議なキノコ」見学
- 第9回観察会(採集会) 7月9日 (52名 36種)
一宮海岸
- 第10回観察会(採集会) 9月17日 (73名 55種)
泉自然公園 指導/本郷次雄先生
- 第11回観察会(採集会) 10月15日 (76名 89種)
市原市民の森 指導/服部力先生、吹春俊光先生
- 講座 1995年3月11日 服部力先生/硬質菌の分類
- 第3回スライド大会 12月3日
中央博物館会議室 テーマ/イグチ
- 会報 No.7 / 5・18 No.8 / 8・31 No.9 / 2・15
- 名簿 1994・8・30発行 (会員数163名)
- 幹事会 1994・4・10 中央博物館

千葉菌類談話会の諸行事

この10年間に開催された千葉菌類談話会の諸行事を別表に取りまとめたのでご覧いただきたい。

思い出に残る諸行事のこと

■観察会

会の諸行事の中でも野外採集会や同定会は野外で不思議な魅力を持つキノコに直接触れる楽しみもあって人気が高い。第1回のキノコの採集会は平成3年7月28日になじみの深い風土記の丘で発会式を兼ねて行われた。以来毎年3回の観察会を実施しているが、患

まれたのはハラタケ目研究の世界的権威である本郷次雄先生にご指導いただけた事であろう。当然のことながら本郷先生ご指導の観察会は人気が多く、平成10年10月3日泉自然公園での観察会は何と参加者は95名を数え、先生の解説はハンドマイクなしには聞こえない程の盛況であった。

■講義録の発行

博物館主催で行われた本郷先生の講座の方も受講する談話会の会員が多かった。千葉菌類談話会発行の“本郷次雄先生講義録”は当時会員で博物館の解説員であつた小沼良子さんが勤務のかたわらこの名講義をまとめて1冊の本にした労作中の労作である。



ハンドマイクで大いに語る本郷先生 (95/9/30)



吉見先生講座 (99/10/31)

1995年(平成7年)

- 総会／第12回観察会（採集会）7月8日（68名 47種）
船橋県民の森
- 第13回観察会（採集会）9月30日（88名 37種）
泉自然公園 指導／本郷次雄先生
- 第14回観察会（採集会）10月21日（70名 55種）
市原市民の森
- 講座 12月23、24日 吉見昭一先生／腹菌類の分類
- 第4回スライド大会 12月2日
中央博物館会議室 テーマ／テングタケ
- 会報 No.10／6・14 No.11／12・6
- 名簿 1995・6・20 発行（会員数200名）
- 幹事会 1995・4・8 中央博物館



本郷先生のこの描き方講座 (96/10/13)

1996年(平成8年)

- 総会／第15回観察会（採集会）7月13日（48名 63種）
船橋県民の森
- 第16回観察会（採集会）10月12日（70名 89種）
泉自然公園 指導／本郷次雄先生
- 第17回観察会（採集会）11月2日（50名 26種）
市原市民の森
ニオウシメジ試食
- 講座 8月17、18日
内浦山県民の森泊、清澄東大演習林
吉見昭一先生／腹菌類採集実習
- 第5回スライド大会 12月21日
中央博物館講堂 テーマ／キシメジ科
- 会報 No.12／6・15
- 名簿 1996・11・23 発行（会員数223名）
- 幹事会 1996・4・6 中央博物館

■講座

吉見昭一先生の菌類講座

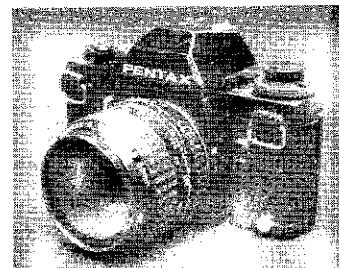
腹菌類研究の第一人者である吉見昭一先生の菌類講座も忘れる事は出来ない。清澄にある東大演習林の野外実習で熊手を使ってどう掘るか具体的にそのコツを教えていただいた事がある。実はこの時先生は病後療養中だったとのことで先生の責任感の強さと意志の強さには敬服とともにただ驚くばかりであった。



吉見先生講座にて穴掘り指南 (96/8/17)

伊沢正名先生の写真講座

キノコ写真のプロ伊沢正名先生の講座“キノコ写真の撮り方”はこれも会員にとって忘れられない講座の一つであろう。写真機・付属品の事から三脚のすえ方、その上秘中の秘であるキノコの植え方までプロの裏わざを伝授していただいた。実習が終わってから伊沢先生が“九州では私の講座を受講してからぐんと腕が上がります。これで千葉があかんかったら見放しますから”といわれたのが未だに強く印象に残っている。それ以来確かにこの講座を源にして会員の腕前が一段と上達した様に思えてならない。私も伊沢先生にあやからうと買い変えたペンタックス LXを未だに愛用している。



これがペンタックス LX



第19回観察会(10/4)佐倉城址公園にて



第21回観察会(7/11)船橋県民の森にて

1997年(平成9年)

- 総会／第18回観察会(採集会)7月5日(74名 41種)
泉自然公園 指導／吹春俊光先生
- 第19回観察会(採集会)10月4日(72名 75種)
佐倉市城址公園 指導／本郷次雄先生
- 第20回観察会(採集会)10月18日(59名 51種)
市原市民の森 指導／吹春俊光先生
- 第6回スライド大会 12月20日(参加 56名)
中央博物館講堂 テーマ／ベニタケ属
- 会報 No.13 / 7・14
- 幹事会 1997・4・12 中央博物館

1998年(平成10年)

- 総会／第21回観察会(採集会)7月11日(83名 50種)
船橋県民の森 指導／吹春俊光先生
- 第22回観察会(採集会)10月3日(95名 78種)
泉自然公園 指導／本郷次雄先生
- 第23回観察会(採集会)10月24日(50名 52種)
市原市民の森 指導／吹春俊光先生
- 第7回スライド大会 12月19日(参加 59名)
中央博物館講堂 テーマ／食用キノコと毒キノコ
- 会報 No.14 / 4・30 No.15 / 1999・2
- 名簿 1999・2 会報No.15に記載(会員数268名)
- 幹事会 1998・4・12 中央博物館

■スライド大会とキノコグッズの展示会

毎年その年に撮影した自慢のスライドを持ちよって上映するスライド大会と相京さんの発案によって始められたキノコグッズ(絵・写真・その他)の展示会が中央博物館を会場に開かれてきた。半成13年度で10回を迎えるが、今では千葉菌類談話会には欠かせない楽しい行事の一つであろう。



■千葉菌類談話会通信

会の情報誌である談話会通信も会の情報誌として1991年(平成3年)6月に第1号が発行されたが、わずか6ページであった。それが熱心な会員の皆様と担当幹事さんの努力によって平成12年に発行された第18号では45ページと内容ともにかなり充実している。

千葉菌類談話会通信 Chiba Mycological Club Bulletin



千葉菌類談話会通信 NO.1

千葉菌類談話会通信

CHIBA
MYCOLOGICAL
CLUB
BULLETIN



no.18

千葉菌類談話会通信 NO.18



第25回観察会(10/2) 泉自然公園にて



第27回観察会(7/9) 房総風土記の丘にて

1999年(平成11年)

- 総会／第24回観察会(採集会) 7月11日(47名 64種)
船橋県民の森
- 第25回観察会(採集会) 10月2日(67名 78種)
泉自然公園 指導／本郷次雄先生
- 第26回観察会(採集会) 10月23日(62名 35種)
市原市民の森
- 第8回スライド大会 2000・1・15日(参加 56名)
中央博物館講堂 テーマ／シイ・カシ林のキノコ
- 幹事会 1・30 中央博物館 4・17 中央博物館

2000年(平成12年)

- 総会／第27回観察会(採集会) 7月9日(60名 61種)
房総風土記の丘
- 第28回観察会(採集会) 9月30日(68名 72種)
泉自然公園 指導／本郷次雄先生
ゲスト／テラー・ロックウッドさん(米国)、
島袋守成さん(沖縄)
- 第29回観察会(採集会) 10月14日(44名 46種)
船橋県民の森
- 第9回スライド大会 2001・1・13(参加 51名)
中央博物館講堂 テーマ／マツ林のキノコ
- 会報 No.16・17合併号／5 No.18／12
- 名簿 2000・12 会報No.18に記載(会員数299名)
- 幹事会 2000・4・15 中央博物館

■千葉菌類談話会の会員数

会員の数も1992年8月20日現在の名簿では92名だったものが1994年8月30日現在の名簿で167名となり、2002年12月の名簿では334名(団体等含む)と大巾に増加し、嬉しい悲鳴というか増え過ぎて運営にあたる幹事さんの頭を悩ませる程である。

■千葉県キノコ図鑑

1995年5月に千葉菌類談話会の活動の成果を千葉県キノコ図鑑としてまとめてみてはという提案があり図鑑編集委員会がスタートした。近年各県からすばらしいキノコ図鑑が続々刊行されている。千葉菌類談話会からも一日も早く同好者が利用して喜ばれるような特色のあるキノコ図鑑を会員の皆様のご協力によって何とか完成させたいものである。

■千葉菌類談話会の幹事会

千葉菌類談話会の運営については毎年年度初めに開か

れる幹事会で協議してきめられ諸行事も献身的な担当幹事さんの協力によって実施される。出来るだけ規則化をさけ会員の皆様の意見を十分とり入れてくれる幹事さんの協議によって運営されるのが千葉菌類談話会の特色といえよう。

■千葉菌類談話会の現状から

この10年間の歩みを通じて会員のレベルの向上はめざましく、外国の専門誌によって研究する会員も増え、写真もプロなみの腕前を持つ会員も何人かいるような現状である。自然誌博物館を仲立ちにして専門家とアマチュアが協力する関係を、かつて私はキノコの菌根に例えた事があったが、今やその成果が着々と実りつつあることは本当に喜ばしい事である。これからも諸行事を通じて会員の皆様と運営にあたる幹事の皆様のご協力によってこの会が同好者の交流の場や情報交換の場として、さらに楽しい会として一層充実することを願ってやまない。